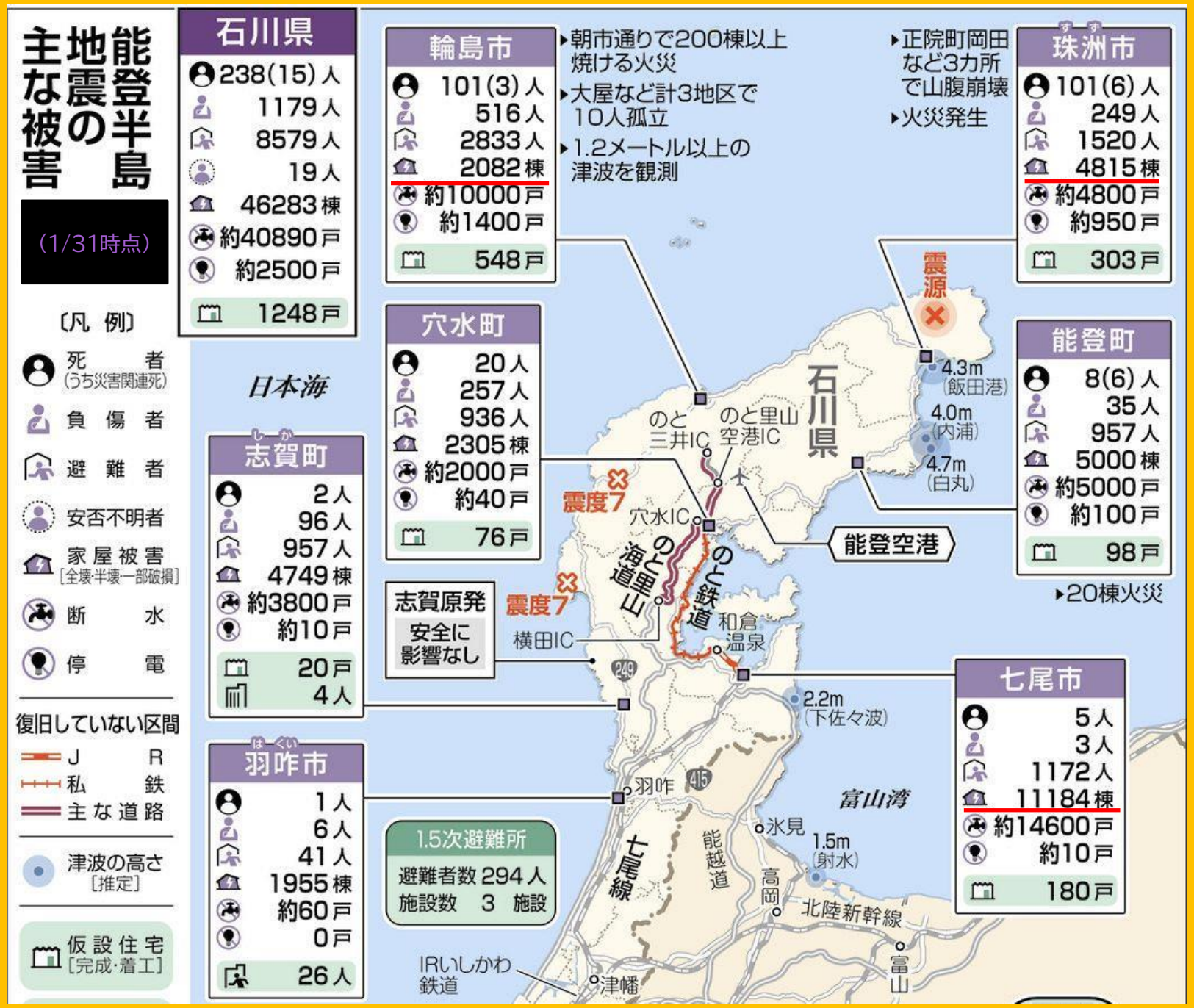
「令和6年能登半島地震」救援活動報告

<報　告　者>

令和6年4月29日～5月5日(第25クール)

南基幹型包括支援センター 宮下 上夫

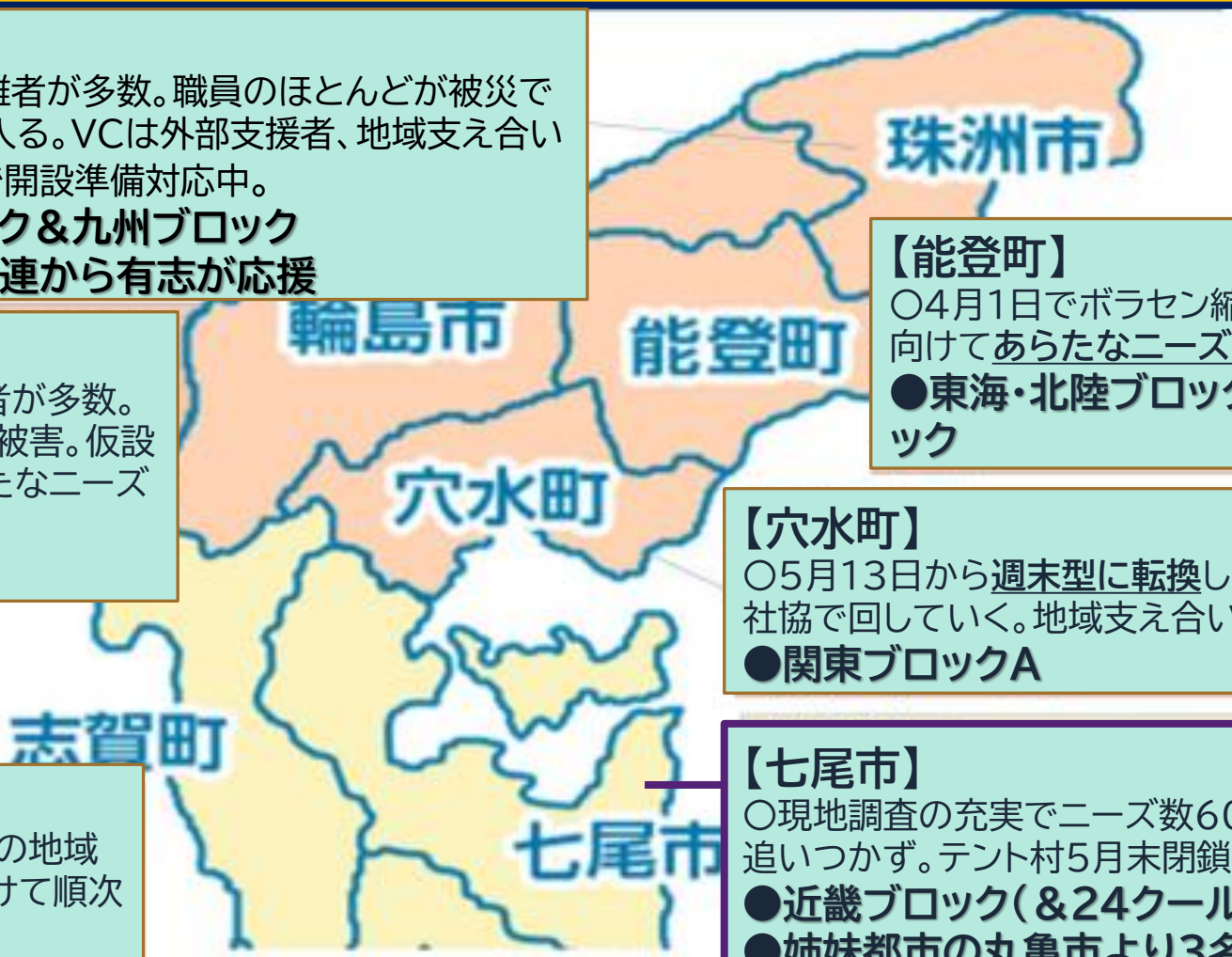


令和6年1月1日16時10分
最大震度7
マグニチュード7.6の地震発生。

震度7：志賀町・輪島市
震度6強：七尾市・珠洲市・穴水町
能登町

珠洲市と輪島市を中心に5/1時点でまだ3780戸で断水が続いている。仮設住宅の建設が進み地域支え合いセンターへの移行（次のフェーズ）を視野に入れつつも、まだ片付けのボランティアニーズが続いている。

能登半島へ全国各ブロックから応援



【珠洲市】
〇全壊が多く二次避難者が多数。職員のほとんどが被災で多数の外部支援者が入る。VCは外部支援者、地域支え合いセンターは地元社協で開設準備対応中。
●東海・北陸ブロック＆九州ブロック
●GW期間中：経団連から有志が応援

【輪島市】
〇全壊が多く二次避難者が多数。2人に1人は半壊以上の被害。仮設住宅への居住に伴い新たなニーズが生まれている。
●東海・北陸ブロック

【志賀町】
〇震度7を観測。被害の地域差が大。VC閉所に向けて順次対応中。
●北海道・東北ブロック＆四国ブロック＆関東A

【能登町】
〇4月1日でボラセン縮小。公費解体に向けてあらたなニーズに対応中
●東海・北陸ブロック＆中国ブロック

【穴水町】
〇5月13日から週末型に転換し県内および地元社協で回していく。地域支え合いセンターへ移行
●関東ブロックA

【七尾市】
〇現地調査の充実でニーズ数600件。ボランティア活動件数追いつかず。テント村5月末閉鎖でボランティア不足も懸念。
●近畿ブロック（＆24クールまで関東ブロックB）
●姉妹都市の丸亀市より3名派遣（交代制）
●GW期間中：経団連から有志が応援

七尾市の状況①

プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選
2024年1位　⇒「和倉温泉　加賀屋」

七尾市のシンボルの一つ「加賀屋」には大きなヒビ。
近くの住民さん
「加賀屋は修理に100億掛かる。和倉は終わりや・・・」

七尾市の状況②

大型旅館の多くはヒビや傾いた状態。復帰の目途立たず。

住宅や多くの大型旅館で甚大な被害。
まだ解体作業はされておらず、発災後
4か月が経過しているが、倒壊した状態がそのままになっている。
ライフラインは1ヶ月前には完全復帰し、道路も復旧しつつあるが、
まだまだ、一部地域では道路の段差が大きく、通行止めも残る。

七尾市災害ボランティアセンター体制図

七尾市災害対策
ボランティア本部
（七尾市役所）

本部運営

運営支援
（支援P・
近ブロリーダー）

- 全体統括（七尾市社協局長）
- 現場統括（七尾市社協総務課長）
- 運営・広報（七尾市社協職員2名）

オリエンテーション・マッチング・資材班

- ボランティアマネジメント機能
- チーム構成とニーズのマッチング
- 支援内容と留意点の説明
- 車両マッチング
- 支援中の進捗管理
- 資材配布、管理

ニーズ班・現地調査班

- ニーズ受付（七尾市社協職員）
- ポスティングローラー作戦
- 現地調査
  - （ボラ支援対象判断、人数、物品のアセスメント）
- 資料作成

廃棄物仮仮置場班

- 市の仮置場へ持ち込み前の分別作業
- 搬入廃棄物の破棄可能の可否判断

七尾市災害ボランティアセンターの特徴
①テント村

〇七尾市内の野球場に設営
〇6年前の西日本豪雨災害の際に受けた支援の恩返しをしたいという岡山県総社市が中心になり、登山家野口健などと連携し設営
〇無料で寝泊まりでき、シュラフも貸し出し可
〇100基のテントはGWに満杯。七尾市災害ボランティアセンターの主力となっている
〇5月末でテント村を締めることからボランティアの確保が難しくなることが予測される

七尾市災害ボランティアセンターの特徴
②仮仮置き場の設置

市内3カ所の災害廃棄物の仮置き場の分別が厳密なため、持ち込み時に渋滞が生じたり、受け取ってもらえないことが多かった

「仮仮置き場」を設置し、搬出された災害廃棄物をいったん仮仮置き場で荷下ろしし、分別を行って「仮置き場」へ搬出

被災者宅からの搬出がスムーズに行え、ニーズ対応軒数の増加にもつながっている

被災者宅 → 仮仮置き場 → 仮置き場 → 最終処分場

仮置き場への搬出NG物品一覧

①段ボール ②紙 ③本 ④発泡スチロール ⑤乾電池 ⑥蛍光灯・電球 ⑦衣類

⑧瓶・缶
ペットボトル ⑨ライター ⑩スプレー ⑪木くず ⑫石、灯篭 ⑬金庫 ⑭人形

七尾市災害ボランティアセンターの特徴
③ニーズキャッチ～逆受付～

・４月上旬から、声が挙げられていない住民がいるのではないかと、ポスティングやローラー作戦を実施

・取り組み開始から1か月で、以前の1日あたりの問い合わせ数（約10件）が多い日には60件まで増加

・５月10日現在、約600件のニーズが寄せられている

七尾市災害ボランティアセンターの特徴
④現地調査班の設置

目的：ボランティアが活動を行う前の作業確認を実施

〇アポイントを取り、２人組で訪問
〇実際の希望内容を確認
〇市の災害廃棄物の分別ルールを伝え、回収できるものとできないものを一緒に確認
〇一般ボランティア・技術ボランティアどちらの対応になるのか見立て
〇作業量の見立て
〇現地写真の撮影
〇活動場所の道路状況の把握

課題

災害廃棄物の分別や回収の可否に被災者の関心が向くため、生活の困りごとのキャッチにつながりにくい

七尾市災害ボランティアセンターの特徴
⑤ICTの活用

株式会社ドコモより貸与を受けているバディコム（デジタル版のトランシーバー）を活用し、七尾市災害VC（本部）・ボランティアリーダー・運転ボランティア・仮仮置き場等、バディコムを持っている人全員と同時に情報共有ができる。

・複数で状況が確認できるため、活動状況が可視化しやすい
・住所を入力したらナビゲーションにもなり、突然のニーズが入ってもすぐに次の活動場所に移動できる

ボランティア依頼から実施までの流れ

訪問（家・避難所）・電話受付

1週間

現地調査（どんなニーズか確認）

ボラ、マッチング調整

1週間

ボランティア実施

5/20
受付終了

【現在、多いボランティアニーズ】

- 自宅や庭に出した震災廃棄物を処分して欲しい。
- 住めなくなった自宅の家財を離れや車庫に移動させて欲しい。
- 避難所への引っ越しを手伝って欲しい。

＜空き家・納屋も対象拡大後＞

- 使っていない空き家の不用品を処分して欲しい。

ボランティアさんの一日①

市内テント村(野口健×総社市他)

徒歩16分

災害ボラセン到着

QRコードで受付

全体オリエンテーション

各班に分かれてボラ内容説明

必要な資材を確保

ボランティアさんの一日②

全員と交信できるトランシーバー型スマホ

バディコムの操作説明

トイレは仮設。水道不通と思いきや、ただトイレ故障中

出発前にお手洗い

被災者宅で廃棄物の積み込み

仮仮置場で積み下ろし

災害ボラセンに戻って報告

終日「仮仮置場」で分別専門のボラさんも

現地調査班の一日①

7:15　宿舎(氷見市)出発

7:55　ボラセン到着

8:00　当日業務準備

震災●日目。
今日も笑顔
と感謝で頑
張りましょう

8:20　朝礼

8:30～15:30　現地調査(ニーズ確認)

現地調査班の一日②

15:30　データ入力

16:30　他班の応援

17:15　終礼(ミーティング)

20:30　宿舎で近ブロMT(時々)

19:15　災ボラ近くのスーパーで夕食購入

17:45　翌日の準備

マッチング班の一日①

7:15　宿舎(氷見市)出発

7:55　ボラセン到着

8:00　当日業務準備

震災●日目。
今日も笑顔
と感謝で頑
張りましょう

8:20　朝礼

9:00　オリエンテーション
マッチング

9:30　各班にボラ内容説明

マッチング班の一日②

10:30　送り出し後の対応

11:00～17:00　マッチング

15:30　ボランティア戻り➡報告対応

17:15　終礼(ミーティング)

17:45　翌日の準備

20:30　宿舎で近ブロMT(時々)

仮仮置き場スタッフの一日①

7：15 宿舎（氷見市）出発

7：55 七尾市災害ＶＣ到着

8：00 当日業務準備

8：30朝礼

8：30～16：30
仮仮置き場にて作業

近ブロ25クール

【期間】
4/29(月・祝)⇒5/5(日)
※4/29・5/5は、移動日。4/29は、24クール宿舎に戻り次第、引継ぎ。
※4/30・5/4は、終日引き継ぎ日。

構成員:14名(滋賀県 2名・京都府 3名・大阪府 3名・兵庫県 3名・奈良県 2名・和歌山県 1名)
※男性9名・女性5名(社協経験年数もベテランから浅い方まで、バランスよくおられる)

近畿ブロック以外:丸亀市役所から3～4日1クールで職員派遣。
また、経団連(三菱重工・カシオ・電通・第一三共など)がGW期間中に4クールで、職員派遣。近ブロ中心にその方々とチーム構成。

【ミッション】 即時対応シフト
GW期間中であるため、その期間中にご家族が帰省されたり、避難所から戻られて、家の片づけをされるにあたってのボランティアニーズに即時対応できる体制づくり。
※ニーズ連絡後、すぐに現地調査し、GW中にボラ実施。

社協が災害ボラセンを運営する意味

- 全ての自治体に存在し、全国的なネットワークを有している
- 平常時からボランティアセンターという機能を有している
- 民間としての機動力がある
- 本来使命として、地域の生活課題を把握し、解決する機能を有している
- センター閉所後は、社協の本来機能として、被災者の生活支援、被災地の復興支援にあたる

聞き取り時は、生活支援ニーズまで聞き取るのが社協の使命